第１回資源循環推進部会　議事概要

2026 年（令和 8 年）8 月 31 日（月）　13:00～15：30
パピオスあかし 5 階 あかしこども広場 多目的ルーム A
出席委員：4 名
関係者：5 名

◇正副部会長の選出
　部会長：花田 眞理子 委員
　副部会長：小島 理沙 委員

【議事(1)】
明石市一般廃棄物処理基本計画の改定について
①明石市の概要・ごみ処理の現状
○事務局より説明（資料１）

＜主な質疑＞
（部会長） 13 ページに拠点回収の中に「ハブラシ」が挙げられている。どのような経緯・仕組みでリサイクルされているのか。

（事務局）市内に工場があるハブラシメーカーから提案があり、市が市民から使用済みハブラシを回収し、異物を除去した後に提携するリサイクラーへ送り、プラスチック原材料として再利用する仕組みです。
この取組みの還元品として、子供用ハブラシの提供や、リサイクルして作られた「遊具用ブロック」をご寄附（子育て支援センター5 カ所）いただいています。

（関係者）3 ページにおいて「温室効果ガスの発生抑制」についての記述があるが、本計画の中に具体的な削減数値が記載されていない理由を伺いたい。

（事務局）CO2 の具体的な削減目標は、「地球温暖化対策実行計画」等に委ねる形を取っており、現行の計画内での個別数値の設定は行っていません。

（関係者）6 ページに、今回の計画改定における目標年度が「2037 年度」とあるが、ここにもごみ減量などの数値目標が示されていないが、どのように決めていくのか。

（事務局）本日は第１回目の部会であり、現状の把握の段階です。次回以降に委員の

皆さまに議論をいただく予定となっています。

②前計画の総括・アンケートの実施について
○事務局より説明（資料 2）

＜主な質疑＞
（委員）13・14 ページあたり、2025 年度から市の各施設から出るごみを「家庭系」から「事業系」へ計上区分を切り替えたとのことだが、これがどれほどの影響を与えているのか。

（事務局）市の各施設から出るごみの量は年間 500 トン～600 トンです。区分移行により家庭系がその分減少し、事業系が増加しています。

（委員）18・19 ページに他都市とのごみ処理量の比較が示されている。今後明石市として目標を立てる際、「平均値」をターゲットにするのか、「トップランナー」を目指すのか。また、自治体ごとに工場の多さなど産業構造が異なるため単純比較は難しいと思う。

（事務局）あまりに現実離れした高い数値を目標に設定してしまうと、市民生活への急激な強要や過度な負担になりかねないため、ごみの排出量が少ない自治体の先進事例などを参考にしながら、現実的かつごみ減量への実効性があるバランスの良い目標値を、この部会の中で議論して決めていきたいと考えています。

（委員）明石市は最終処分場の確保が極めて困難で、現在の第 3 次最終処分場が実質「最後の埋め立て地」になるとのことだった。もし巨大地震などの災害が起こり、大量の災害ごみが持ち込まれた場合は対応できるのか。

（事務局）災害廃棄物については、災害の規模によるため、一概には言えないところです。

（部会長）災害が起きたときに、まず運び込む場所が必要であり、現在は、できるだけ最初から分別して、災害ごみを搬入することが重要と言われているが、一時置場は明石市では考えているのか。

（事務局）明石市では「災害廃棄物処理計画」を策定しており、仮置き場設置や分別・処分方法について記載されています。

（委員）一人当たりのごみの量が出ていたが、人口増も踏まえた数値なのか

（事務局）策定時の予測に基づいて算出しています。

（部会長）世帯当たりのごみの量の推移も見ていく必要があると考えている。また、検討いただきたい。

（委員）現在指定ごみ袋の導入が進んでいるが、議論は10年前からあった。明石市は、他市に比べ遅れている現状があると思う。例えば、プラ分別をもっと早く始めることはできないのか。

（事務局）現状、新ごみ処理施設供用に合わせて、プラ分別を始める予定であり、先行実施しようとすると、現施設が、プラ分別に対応していないため、体制を新たに構築する必要があり、別途、収集経費、処理経費の負担がかかるため、新ごみ処理施設の稼働に合わせて、プラ分別を始めることが合理的と考えています。

（部会長）6 ページに「家庭用生ゴミ処理機の購入助成」があるが、現在予算はどれくらい確保されており、市民からの申請に対して十分に足りているのか。

（事務局）多くの申請をいただいており、当初予算だけでは足りなくなったため、令和6 年度・7 年度については、申請者全員に行き渡るよう予算措置を行っています。

（部会長）購入助成だけでなく、キエーロという箱に砂を入れるやり方や段ボールコンポストなどの啓発もお勧めしたい。

（部会長）21 ページに 13 中学校区ごとに 100 名ずつ、無作為抽出とあるが、人口差はないのか。また年代は？

（事務局）全く人口差がないわけではないですが、市内のバランスがとれた抽出方法だと考えています。年代は無作為抽出のため、人口割合に応じて、抽出されると見込んでいます。

（関係者）明石商工会議所としては、事業系ごみの削減について全面的に協力していく姿勢である。資料では目標値が合計値として示されているが、「家庭系」と「事業系」それぞれの削減目標値や排出量の推移を切り分けた形で、より分かりやすく開示

してほしい。そうすることで、事業者の当事者意識や削減への動機付けに繋がる。
事業系ごみの排出量推移を見ると、家庭系ゴミに比べて削減があまり進んでおらず「横ばい」となっている。この点について、次回以降、アプローチや方策を示していただきたい。

（事務局）ご協力いただける旨、大変心強く感じています。ご指摘の通り、家庭系と事業系それぞれの目標や進捗を個別に管理・提示することは非常に重要であるため、それぞれの目標内訳を明確に示した資料を次回の部会でお示しします。

（関係者）3 ページの環境マネジメントシステムは、どのような評価方法なのか。評価は本来環境審議会でされるべきと考える。

（事務局）評価指標に則って、環境室内の別の部署がお互いの計画の施策について評価をしあう方法をとっています。環境審議会での報告も今後検討します。

（関係者）プラ分別について、今後の見通しは。

（事務局）新ごみ処理施設稼働に合わせて、容器包装プラスチックと製品プラスチックに関しては、分別品目に追加する予定です。

（関係者）9 ページに指定ごみ袋の減量効果の推計 8.8%とあるが、どのようにして出したのか。

（事務局）市民アンケートによる推計で算出しています。

（関係者）16 ページにリサイクル率のグラフがあるが、環境省によると全国平均のリサイクル率は R6 年度時点で 19%となっている。明石市のリサイクル率は高くできるのか。

（事務局）明石市のリサイクル率が低いことは認識しています。今後プラ分別が始まるに伴いリサイクル率の上昇が見込まれますが、19%は難しいと考えています。

（関係者）リサイクル率が、2018 年時点で 10.7%とある中、目標値が 10.4%なのはなぜか。

（事務局）下落傾向の中、10.4%の下落に抑制するということで設定しています。

（副部会長）目標としては、最終処分量をいかに減らすかが最も大事なことであると考えており、枯渇資源である最終処分場をいかに延命化していくかが、廃棄物施策における根源的で最重要なところである。最終処分量の目標値については、次回以降しっかり議論したい。

リサイクル率については、多くの自治体で参考指標にしていこうという動きがある。リサイクル率を上げることを重視しすぎると、様々なコストがかかるため、まずは発生抑制（リデュース）の取り組みを重視していただきたい。

また事業系ごみについては、全国的に横ばいであり、課題である。例えば西宮市は事業系ごみの分別指導に真剣に取り組んだ結果、実際にごみが減っている。ごみ搬入手数料の見直しなどでインセンティブをつけながら、進めていけばよいと考える。

（副部会長）災害時のごみ処理運搬について、他市連携はあるのか。

（事務局）神戸市等兵庫県内の市町と広域連携しています。

（副部会長）例えば千葉では災害ごみとして車や家電 4 品目も災害ごみとして出されている。自前の最終処分場だけで受け入れは困難なので、災害ごみの計画が確認できるとありがたい。

（副部会長）ボトルtoボトルは、ペットボトル全量をあてているのか。

（事務局）ペットボトル全量をあてており、容リ協会へは渡していません。

（副部会長）容リ協会へ出すと、再資源化価格のベンチマークを知ることにもなるので、一部容リ協会へ出すことをお勧めする。

【議事（2）】 ごみ搬入手数料の見直しについて
○事務局より説明（資料 3）

＜主な質疑＞
（部会長）具体的に今後手数料の改定を検討していくということか。

（事務局）改定時期は、受益者負担、ごみ搬入量の目標値等を総合的に勘案して、今後の部会でお示ししたいと考えています。

（関係者）中小企業事業者にとって、経費は抑えたいものであり、10 月からの最低賃金上昇など、他にも経費が増える。近隣市町との価格差、処分費の上昇ということはわかるが、価格設定については慎重な検討をお願いしたい。

（関係者）事業者側からすると、昨今の物価高、燃料費の高騰、さらに 10 月からの最低賃金引き上げなどが重なり、ごみ処理手数料へ転嫁は大きな負担となる。もし見直し（値上げ）を行うのであれば、一気に改定するのではなく、「段階的」に引き上げるなどの配慮をしてほしい。

（事務局）受益者負担の適正化や他都市との価格差を是正するため、手数料の見直しは早い時期に実施していきたいが、事業者一度に引き上げるのではなく、「段階的な引き上げ」も含め、どのような移行方法が最適か検討していきます。

（委員）手数料の改定はやむをえないが、例えば神戸市では、資源ごみとして分別したものは安価な価格で受け入れていると聞く。分別しての排出は、手数料を下げるなどの発信の仕方も検討してほしい。

（部会長）非常によい視点。実際、指定ごみ袋制度の導入も同様だが、ルールや手数料を適正化することで「分ければ分別資源として安く（または無料で）引き取ってもらえるが、混ぜて捨てると高い手数料を払わなければならない」という環境を整えることが、効果的である。

（委員） 事業系ごみを一般の家庭ごみに混ぜて出されることがあると思う。通常、許可業者と契約を結んで排出するはずだが、商工会議所や廃棄物処理業協同組合では実態を把握しているか。

（関係者）事業系ごみの収集運搬について、商工会議所として個々の中小企業の実状までは把握していない。
昨年、市から、事業系ごみの処分の契約についての声掛けがあったため、商工会議所としても協力に努めているところである。

（関係者）許可業者と契約してごみを排出している事業者については、排出報告書を、毎月、明石市へ提出しているため、精査すれば、把握できるかもしれない。肌感覚として、事業所兼自宅といった店舗は、家庭ごみに混ぜてごみを出していると感じる。

（関係者）事業系ごみで、他市で剪定した木を持ち込もうとする例があると聞く。ご留

意願いたい。
さて、別件だが、歩道にあるごみステーションについて、点字ブロック上にもごみが置かれており、困ることがある。市の方で検討してほしい。

（事務局）状況については、市でも把握している。地域で困ったことがあれば、収集事業課へ相談いただきたい。一方で、ごみステーションの移動については、個人宅との兼ね合い等もあるため地域で相談をしていただき、市へご相談いただきたい。

（関係者）ごみステーションの移動は、地域・自治会だけではなかなか困難であるため、市にも介入いただいて、提案をしていただきたい。

（事務局）ごみ置場の移動、設置については、市でも、なかなか関与が難しい課題として認識しています。引き続き検討していきたい。

（環境部長）理施設の立場として、環境室から審議に参加しており、最後に一言申し上げる。最終処分場の問題が契機となり、皆さんにリデュースについてはご協力いただいている。
一方で、ごみの処理手数料については、前回の改定は阪神淡路大震災で第二次処分場が一気に埋まったことがきっかけとなっており、それくらいの事態が起こらないと改定できなかった経緯がある。この度は、早い段階で、2 年間かけての協議となっているため、引き続きご協力願いたい。

◇今後のスケジュール
○事務局より説明（資料 4）

閉会